

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.29 - 2011年5月



親愛なるサレジオの宣教師、
サレジオ・ミッションの友人の
皆さん!

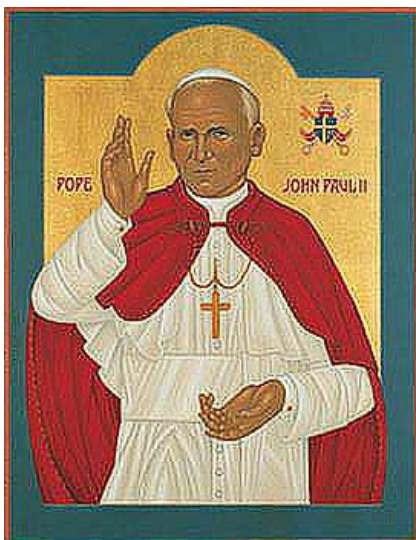
マリアの月に、心から復活節のあいさつを申し上げます。今月の最初の日に、偉大な宣教する教皇、ヨハネ・パウロ二世の列福という賜物を、私たちは神に感謝します。教皇は若者、そしてキリスト者でない人々と大変親しく関わりました。

25年前、私はヨハネ・パウロ二世によって司祭に叙階され、その直後に韓国に派遣されました。教皇の宣教する生き方のあかしを、そして、宣教に関する回勅「救い主の使命」を、主に感謝します。

扶助者聖母の祝日は、中国の教会のために祈る日でもあります。大いなる中国の、兄弟姉妹の直面する挑戦を思い出し、祈りを捧げましょう。

Václav Clement

宣教師顧問
ヴァツラフ・クレメンテ神父



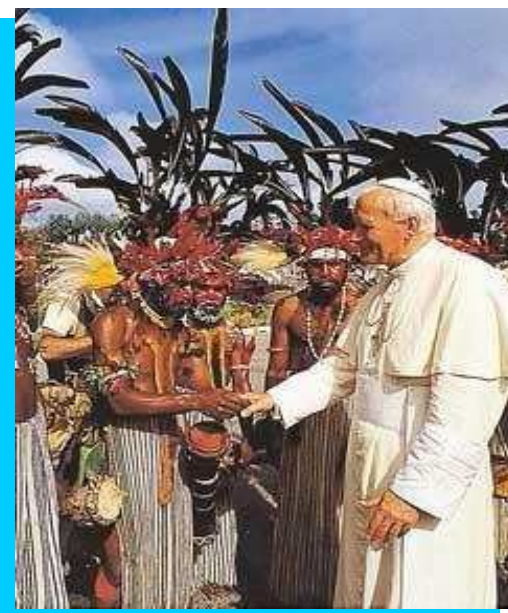
Ad gentes すべての人への宣教の情熱は、 奉獻生活そのもののうちに

福者ヨハネ・パウロ二世は、その使徒的訪問旅行の途上、次のように語っています。「私はペトロの後継者です、そしてパウロの後継者でもあります。パウロは福音を告げ知らせるため、世界中を巡り歩きました。」まさにそのとおり。教皇は偉大な宣教師でした。第一には、生き方のあかしを通してキリストを告げ知らせたからです。教皇の人生はキリストに深く根ざしていたので、出かけて行って人々と出会い、主イエス・キリストへの信仰を分かち合わずにはいられなかったのです。ヨハネ・パウロ二世の列福は、『奉獻生活』76-78の言葉を読み直す良い機会でしょう。教皇は、すべての人への宣教の情熱は修道生活の不可欠な特質であると強調しています。

「**奉** 獻された人々の福音宣教に対する独自の貢献は、第一に、人間への愛から自らをしもべとした救い主に倣って、神と兄弟姉妹に完全にささげられた生き方をあかしすることです。……奉獻生活が雄弁に物語るのは、人は、キリストのうちに生きれば生きるほど、他者においてキリストに仕えることができるようになり、はるか遠くの宣教の地点にまでも足を伸ばし、きわめて大きな困難にも直面するということです。」

「**す** べての人の父である神を愛する人は、仲間である人類、すなわち兄弟姉妹として受け入れる人々を愛さずにはいられません。まさにこのことから、彼らは、キリストのうちに神の愛が完全に現れたことを知らない人々が大勢いるという事実に関心ではられません。キリストが命じたことに従って、諸国民への宣教の熱意が生まれ、自覚あるキリスト者は皆、本来、宣教者である教会と宣教活動を分かち合います。とりわけ、観想生活の会、あるいは活動的生活の会の会員は皆、この熱意を感じています。事実、奉獻された人々には、貞潔で、貧しく、従順で、よく祈り、宣教者であるキリストを、キリスト者でない人々の間であっても現存させる務めがあります。」

「『**キ** リストの愛が私たちが駆り立てているからです』(2コリント5・15)。あらゆる会の会員は、聖パウロとともにこの真実を繰り返さなければなりません。奉獻生活の務めは、キリストの国を強め、拡大するために世界の至るところで働き、もっとも遠い地域にも福音の宣教をもたらすことだからです。事実、宣教の歴史は、奉獻された人々による諸民族に対する福音宣教への偉大な貢献をあかししています。……今日においても、この任務は、奉獻生活の会と使徒的生活の会に対する差し迫った招きであることに変わりはありません。これらの会は、キリストの福音の宣言に最大限可能な貢献をすることを期待されています!」



宣

私の宣教師生活は希望の旅

教師になることは、夢と現実が出会う道だということを、私は確信しています。今、私が宣教師であることは、私の過去に根ざした夢であり、さまざまな理由から説明できます。

まず、宣教師になるという望みは、燃える柴のようで、その源は私の家族です。私は両親の長男ですが、子ども時代を親と遠く離れて過ごしました。6年以上も離れていたため、私が宣教修道会に入ると決めるとき、父と母はよりたやすくそれを許すことができました。もう一つの理由は、私がパロティン会(Palottines)にゆだねられた聖アロイジオ小教区に所属していたことです。福音宣教は、パロティン会にとって優先的な活動の一つなのです。私の故郷の町、ゴマのノルド-キヴで活発に働いていたサレジオ会員たちと出会い、私の望みは強められました。同様に、養成のそれぞれの段階で自分の動機を深め、清めることができました。修練期には、キリストに従う自分の道は、祖国を離れて異国の若者たちに奉仕するときにはじめて有効なものになると確信しました。実際、パプア・ニューギニアとソロモン諸島の若者たちの中で奉仕することになったとわかったとき、私の夢は現実のものとなりました!

確かに、今、私がソロモン諸島にいるのは、遠い昔の希望の結果です。ローマで新宣教師養成コースを受講中、まだどこに派遣されるか知りませんでしたが、すでにここに来ることを強く望んでいました。ケニアでの英語コースを終えてこの地へ発つ前夜、私はドン・ルアの言葉、「私はミラベッコでドン・ボスコになる」を自分に言い聞かせました。「私はソロモン諸島でドン・ボスコになる」と。

ソロモン諸島への希望の旅で最初に経験したことは、すべてが自分にとって新しいということでした。時間、気候、食べ物、言葉、環境など。実際、ここの暑さは私にとって息苦しいほどで、また慣れ親しんだフランス式の教育と大きく異なるイギリス式教育を行っている学校で、どのように教えたらよいか全くわかりませんでした。実地課程にある若い会員として、異なる文化出身の二人の司祭と共に、そして無気力のように見える、“活力のない”若者たちの中にいて、私はしばしば孤独の中に閉じこもりました。

しかし、若者たちが創造力豊かであることを発見したとき、本当に驚きました。芸術に関わるあらゆることが、この文化に良く適用できるのです。それは私にとって喜びの始まりで、この新しい文化に根を下ろすきっかけになりました。国際的な共同体の中で生活することは自分にとって支えであることを、若い宣教師として、私は心に刻みました。特に、皆が、若者に仕えることによって、ドン・ボスコの足跡をたどりながらキリストに従う、という共通の目標を持っているからです。さらに、自分の人生、宣教師としての召命、自分の時間という賜物を分かち合うことは、地元の文化を受け入れ、評価する助けになっています。忍耐と、あらゆる意味での内的な喜びは、病の危険を上回るものであることを、私は確信をもって言うことができます。

メラネシア研究所による諸教会宣教師オリエンテーション・コースに参加した後、ソロモン諸島の文化の謎に対する自分の意識も変わってくると思います。ソロモン諸島の文化との関わり方を清める助けとなる、さまざまな方法を提供してくれたこととても感謝しています。私はここで、希望への道として、日々、ミッションを生きています。

コンゴ出身、ソロモン諸島の宣教師
モイゼ・パルク



オセアニアのための宣教師募集

国-委任統治区	言語	環境、要件
パプア・ニューギニア -PNG SI	英語、 パプア・ニューギニア・ピジン	太平洋の島国。30年たっても、地元の召命は少ない。 学校教育・技術教育。修道士、求む。
ソロモン諸島 -PNG SI	英語、 ソロモン・ピジン	太平洋の島国。25年たっても、地元の召命は少ない。 学校教育・技術教育。修道士、求む。



サレジオ会の宣教の意向

中国-使命に献身する信徒の養成

東アジア-オセアニア地域、特に中国管区のサレジオ会員と使命を共にする信徒協働者とが、福音の真理に忠実にとどまり、永遠のいのちに招かれた神の子として、すべての人の尊厳を大切にしますように。

中国における物質主義・無神論の環境によるあらゆる困難な挑戦にもかかわらず、私たちはキリスト者共同体の本当の春を目の当たりにしています。アジアで、特にこの25年の間に、キリスト者の数は急速に増えています。社会に働きかけ、教会共同体を築き上げる信徒の養成は、東アジアの教会の未来に向けて、大きな方向性となっています。



ご意見をお送りください。 segrgia@donboscojp.org